

文学的な文章(物語・小説)の読み方

シンプルにまとめると、次の3つに注目して読むと良いです。

- ①物語、小説の設定を整理する
- ②それぞれの場面ごとの内容を読む
- ③物語、小説の中心となる人物の、心情の変化を探る

詳しく説明していきます。

①**設定**…登場人物は誰か、どんな人なのか、物語の時間設定、季節、場所など、全ての設定に作者の意図がちりばめられています。

語り手…物語を語るのは、誰か。「僕・私」視点なのか、途中で別の人が変わっているのか、登場人物以外の別の人

が語っているのか。

②**場面**…物語や小説は、場面がいくつか組み合わさって、一つの作品となっています。同じ時や場所、登場人物の組み合わせが同じ場合、一つの場面としてとらえることができます。場面は、現在と過去が混ざることもあります。また、「伏線」のように、描写や説明が後の場面の出来事を暗示していることもあります。ミステリー小説などによくありますね。場面ごとに何があったか、どんな人が出てきたのかを、まとめながら読むことも大事です。

③**心情の変化**…「心情」は全て本文に描かれているのです。登場人物の行動や様子、会話の中にも表れています。また、以前話をしたように、登場人物の心情を表す情景描写を使うことが多いです。天候などは分かりやすいですね。

次の例をみてみましょう。



A:玄関をあけたら、どんよりとした曇り空が広がっていた。
今日は、運動会がある。



B:玄関をあけたら、さわやかな青空が広がっていた。
今日は、運動会がある。

AとB、運動会に対する思いの違いが、「どんよりとした曇り空」と「さわやかな青空」で例えられています。ちなみに、先生は運動が苦手なので、いつもAの気持ちでした！

これらの読み方を参考にして、再度国語の教科書の「花曇りの向こう」を読んでみましょう！